

選考委員コメント一覧

饗庭伸委員長(首都大学東京)

今年もまことに多彩な活動を助成の対象とさせていただきました。

1998年にNPO法がつくられて丸20年が経ったわけですが、その間、こういった多彩な活動がモザイク画をつくるように地域社会を豊かにしてきたのだと思います。助成対象となった活動は、10年選手もありましたが、昨年に始まったばかりの新しいものもありました。地域の活動は短命なもの＝社会の課題にとっても敏感に反応するものと、長命なもの＝土地と一体化したようなものがありますが、どちらにも役割があります。野球に例えると、先発完投型の投手、中継ぎ、リリーフエース、ワンポイントリリーフと、それぞれが役割を果たすことで、強いチームができるわけですから、助成対象となられた団体は、すこし一呼吸おいて地域の状況を見渡し、自分たちの位置を再確認されるとよいと思います。いずれにせよ、大きな成果を期待したいと思います。

黒瀬武史委員(九州大学)

審査を通して現場の課題を考える機会を頂きました。書面審査の限界はありますが、審査にあたり、次の3点を意識しました。1点目は、取組主体と対象となる地域との関係です。住民や近くに住む方が主体となる活動や、外部の方が既に地域との信頼関係を築いている活動を積極的に評価しました。2点目は取り組みの独自性です。地域独自の資源や住民ニーズ（建物・自然環境・居住者など）を活かした活動に注目しました。3点目は、展開可能性です。独自性と相反する部分もありますが、同じ課題を抱える他地域に展開できそうな取り組みを評価しました。

関由有子委員(せきゆうこ設計室)

今回の応募を通じて、中山間地の生活環境や里山保全の取り組みの多くに、エコロジーだけでなく「地域とつながる活動」としての「価値」が見直されてきたと思いました。短期間では成果が見えにくいものですが、活動を継続して多様な関係づくりを進めてください。また、各地で続く災害に関連した地域活動も多くみられました。人口減少、高齢社会、空き家、地域資源活用など、早晩、向き合わなければならないコミュニティの課題が提示されています。この先も活動の展開を共有し、学ばせていただきたいものです。

「継続は力」とはいえ、型通りになりやすい一面があります。縦横に連携することで、協働者や後継者に持続可能なミッションを引き継ぐことを願います。

原田陽子委員(福井大学)

今年度の選考では、地区独自の特徴を活かしつつ、今後の人口減少・高齢化社会において、

他地区での展開を考える上でも重要な知見が得られることが期待される申請や、地道な活動であっても社会的意義やメンバーの熱意が強く感じられるものが選定されたと思います。一方、事業の実施体制や予算配分に課題があったり、本助成を受けなくても事業展開できそうな申請は選定されませんでした。

採択の有無に関わらず、ぜひ本財団の交流会に参加され、各団体との交流を図り、活動内容が発展していくことを期待しています。

樋野公宏委員(東京大学)

住まい活動助成の選考を担当しました。地域・コミュニティ活動助成と比べると応募数が少ないこともあり、テーマが団地の高齢化対応、空き家活用、古民家再生等に偏っている印象を受けました。その中で、独自性や先進性を重視して選考したつもりです。本助成が各活動団体の課題解決につながることで、さらには同様の課題を抱える全国の活動団体のモデルとなることを祈念します。

山下馨委員(山下馨建築アトリエ)

活動助成選考の楽しみは、スタートアップ時、ボトルネック遭遇時、機を逃さないタイミングなど、プロジェクトや活動の重要な局面を見極め、効果的かつ適切に資金を投入し、かつ、その成果が目に見える形で報告されることです。助成することにより、新しい時代を切り開く活動が生まれる。生まれたばかりの活動が、健やかな歩み始める。行き詰まった活動が再び動き出す。緊急性を要する事態が、一転して動き出す。いずれもワクワクする出来事です。一方で、助成は短期的または一時的な支援に過ぎません。助成のリスクは、「頼る」意識を芽生えさせることです。頼らなければ、連携し、知恵を絞る、アイデアを生み出すことができます。自律・自立する地域の皆様の、ますますの、創意に満ちた多様多彩な展開を願っています。

松本昭委員(ハウジングアンドコミュニティ財団)

今年も、市民主体で地域を元気にする多くの応募がありました。ありがとうございます。

多くの個性的な提案を一言で表現するのは難しいのですが、敢えて言うならば「多様な主体の連携又は交流による持続可能な地域づくり」が大きな特徴でした。例えば、多様な主体が連携分担して、小さな地域資源を上手に活用したり、地域のもつ潜在的可能性を引き出す試みなど身の丈にあった持続的活動、あるいは、高齢者と若年層、定住者と来街者、専門家と地域住民、外国人と日本人等の多様な主体の交流による地域づくりなどが印象的でした。

選考にあたっては、財団の助成が、市民活動の成長や飛躍、継続性を促すものに重点をおきました。生憎、助成の対象にならなかった活動提案にも、素晴らしいものがたくさんあり、次回もぜひご応募して頂きたいと存じます。皆様のご活躍を祈念いたします。